

## 中国自転車旅行記 湖南省編

11月17日 星期天 曇り 湖南省・長沙→白石鎮 国光餐館住宿：50元

例の如く目覚ましを掛けておらず、7時半に起床。とりあえず、今日から広東省広州を目指して南下の旅が始まる。

準備をして8時半に青年旅舎を出発する。近くの麦当劳（マクドナルド）で朝食（コーヒーとセットで6元と安かった）を摂る。コーヒーを多めに入れてもらったので嬉しかった。店内には乞食の爺さんが徘徊しているが、Daniel Powterの「Bad day」が流れていて良い雰囲気だ。長沙も悪くなかったな、と思った。

長沙郊外を南へ進み、12時半に湘潭市のはずれの古い橋で湘江を渡る。13時半頃、道路沿いの商店で炒飯を食べる（頼み込んで10元くらいで作ってもらった感じ）。店内のおじさんおばさんが親切でパンをくれた。おじさん曰く「広州まで七百公里くらいで10日はかかるぞ」ということだった。

湘潭県から白石鎮までの道は二車線の割に大型トラックが多く危なかった。トラックが砂塵を巻き上げるためか鼻水が多く出た。

16時、白石鎮に到着する。今日は雲が厚く、薄暗い一日だった。道路沿いの宿にチェックインした。シャワーを浴びてから先ほどもらったパンを食べた。向かいのスーパーで哈爾濱ビール（4元/瓶）を買って飲む。引き出しを開けたら、長沙の小姐の広告が出てきて笑ってしまった。食後、日記を書く。



（左）湘潭にて湘江を渡る（右）G107の風景 湘潭県～白石鎮間

11月18日 星期一 雨後曇り 白石鎮→衛陽 西湖招待所：60元

7時半、隣の部屋の叫び声で目が覚める。朝っぱらからゲームをしているようだ。若い人民は稚拙な奴が多いように感じる。そんなにゲームが面白いのか？

外に出ると寒さに驚いた。北風が吹き、冷たい雨が降っていた。宿の一階の食堂で早餐を食べてから準備をする。雨装備をして9時過ぎに出発する。それにしても寒い、手袋までつ

けた。北から寒気が流れ込んだようで、沖縄と同緯度とは思えない気温だ。雨がしとしと降っているので昨日と変わって空気が澄んでいる。山には松などが生えていて、日本の山村を連想させる景色だった。

12 時前に開言鎮の、いかにも人民の食堂といった感じのところで早めの昼飯で青椒肉絲を食べる。ご飯のおかわりが自由で良かった。この辺りでは正面に五岳のひとつの衛山が見えた。頂上は雲の中で見えなかったが、険しい山肌を見ることはできた。途中で話したおじさんに写真を撮ってもらう。

16 時過ぎ湘江と耒水、蒸水が合流する地にある衛陽の街に着いた。ネットで見つけた西湖招待所にチェックインした。招待所といっても、1泊50円で金額・設備ともに旅社と大差なし。部屋で農夫山水を沸かし、長沙のウォルマートで買ったコーヒーを淹れた。とてもリラックスできて、フゥとため息が出た。

夜は近くのイスラム食堂で牛肉面を食べてから、招待所の部屋で燕京ビールを飲んだ(全部で18元くらい)。22時過ぎ、外で雨の音がしていた。明日は天気良いだろうか？



- (左) 泊まった住宿の本業は食堂？愛想良いおばちゃんに米線を作ってもらう
- (右上) 五岳のひとつ、衛山の麓を通る。頂上は雲で見えず
- (右下) 衛陽の街並み

11月19日 星期二 曇り 衡陽→耒陽 阿強旅館：30元

寒かったため8時に起床。9時前に宿を出た。チェックアウトの際、押金が10元しか返却されず、宿代が60元になってしまった。マクドナルドで朝食とコーヒーのセットを食べてから9時半に衡陽を出発した。

曇りで、今日も気温は上がらなかった。湘江と耒水の間丘陵地帯を進んだ。アップダウンはそこまで激しくなかったが、街が少なく、イスラム食堂はもちろん普通の食堂すらなかなか見つからなかった。今までの道中で最も人口密度が低かったかもしれない(大別山地は除く)。ガソリンスタンドでお菓子を買って食べただけで、結局、14時過ぎに耒陽の街のはずれで青椒肉絲を食べた。食堂のおじさんがフレンドリーで写真を撮っていた。

15時半頃、耒陽駅(日本語だと、らいよう)に着く。駅の周りは古い(ボロい)旅社や商店が並んでいて、その中の阿強旅館にチェックインした。部屋はコンクリートむき出しでだいぶボロいが、1泊30元と安かった(個室では今までで最安、ドミトリーを含めても合肥の25元に次いで2番目)。

両親から足立美術館の枯山水の写真が送られてきて郷愁を誘う。耒陽は杜甫が没した土地だと聞いていたのでネットや本で調べたが、実際はもう少し北の長沙辺りだったらしい。その流れで、部屋で漢詩をいくつか読んだ。

辺照入閭巷 辺照 閭巷に入る  
憂来誰共語 憂え来るも誰と共にか語らん  
古道少人行 古道 人の行くこと少に  
秋風動禾黍 秋風 禾黍を動かす

近くの交差点に面した食堂で炒飯を食べた。宿に戻ると、前台のおばさんに「明日の朝は7~8度くらいまで冷え込むぞ」と言われる。24時に寝た。



(左) 衡陽市南の G108 京港線と並走 (右) 耒陽駅前の格安旅館 一泊30元



耒陽のはずれの食堂で遅めの昼食

11月20日 星期三 晴れ 耒陽→郴州 金亀招待所：25元

昨晚遅くまで起きていたためか、郴州まで行く日なのに9時前に起きた。9時半過ぎに宿を出発した。イスラム食堂を探していたら耒陽の街を過ぎてしまい10時半頃、小水鎮で炒飯を食べた。今日は久しぶりの快晴で、日中は気温も上がった。今日、進んだ辺りは森林が少なく、赤褐色の土がむき出しになっている丘がいくつも見られた。少し急ぎ目に進んで、14時に栖風渡鎮で米線を食べた。店の女性が優しく、代金を払ったら「謝謝」と言われた。中国に来て、おそらく初めての経験だった。

16時前に郴州（ちんしゅう）に着き、郴州駅前の金亀招待所に入る。ベランダを改造したような部屋が25元と激安（ドミトリーの合肥の青年旅舎と並んで中国宿泊費最安記録）だった。が、入って後悔。隙間風ビュービューだし、けっこう汚い。双人間に変えてもらおうかと思ったが、後客が既に入ってしまうこの部屋が確定した。

19時過ぎに駅のすぐ裏のイスラム食堂で牛肉拉麺を食べた。部屋に戻ってからビールを飲んだ。隙間風を通りこして「そよ風」が部屋中に吹いていて寒い。しかし、沖縄より低緯度なのにどうしてこんなに気温が低いのだろうか？やはり大陸（内陸）だからか？23時頃、寝た。



（左）丘陵地帯が続いた （右）自分史上最強の25元単人間

11月21日 星期四 晴れ時々曇り 郴州滞在：金亀招待所：40元

8時過ぎ起床。意外と良く寝られたが、双人間が空いたのでそっちに移動する。今日は郴州で一日休憩することにした。別に疲れた訳ではないが、この先は広州まで大きな街が無さそうに思われるので。

9時半に麦当劳（マクドナルド）に行き、コーヒーを飲みながら日記を書く。長沙で発見した、麦当劳のモーニングセットにはとても助けられている。お茶の大国、中国ではコーヒーを飲む習慣がないのか、安くコーヒーを出す店が日本に比べて遥かに少ない。一度、上海で外国人観光客向けの店に入ったら、20元もして、ペットボトルから入れただけの氷珈琲がでてきた（それでも、値切ったほうである）。このセットは6円で、コーヒー、バーガーが付く。それも、コーヒーはちゃんとコーヒーメーカーで淹れたやつで美味しい。広東・広西省でもあると良いのだが、、、。

麦当劳を出てから、北湖公園をぶらぶらした。新しい公園で、特に歴史的な見どころがあるわけではないが、中国の公園としては珍しく、人が少なく奇麗で落ち着いていた。昼食は、繁華街で青椒肉絲と米飯を食べた。歩いて招待所に戻る間に、二つの書店によった。「毛主席語録」でも置いてあるかと探したが、無かった。15時前に招待所に戻り、後は部屋でのんびり過ごした。

19時過ぎ、昨日と同じイスラム食堂で干拌拉麵を食べた。少し辛かったが、温かいスープも付いて美味しかった。部屋に戻ってからビールを飲んだ。双人間は昨日と変わって比較的奇麗だ。東向きの窓からは、郴州駅前のロータリーが見下ろせる。22時に布団に入った。



(左) 北湖公園 (右) 郴州市の街並み

11月22日 星期五 晴れ 湖南省・郴州→広東省・梅花鎮 糧所住宿：60元

8時過ぎ起床。9時に金亀招待所を出発する。昨日と同じ麦当劳でモーニングセットを食べる。郴州は山がちな街で、抜け出すのに少し迷ってしまった。12時に良田鎮を通過する。この辺りは長江と珠江の分水嶺になっていて、上海から長らく続いた長江流域の旅も終わり、南シナ海へと下っていくことになる。

分水嶺から少し下って13時頃、湖南省最後の町となる宜尚県に着き、イスラム食堂で牛

肉刀削麺を食べた。食堂の兄さんに「你是那里人嗎？」と聞かれたので、「日本人だよ」答えたら、会計の際に「サヨナラ」と言われた。刀削麺も安くて美味しかったので、湖南省の最後に良い思い出ができたと思う。

14:40 広東省へと入る。省境は峠でも河川でもなく、普通の農村地帯だった。広東省に入ると、尖った形の山々が多く見られるようになり、華南らしい風景だと思った。15時半に坪石鎮に着いた。武水の対岸にエアーズロックのような岩山が聳え立っていた。写真を撮っていたら、公安らしきおじさんが「あれはジンジリン（金鷄嶺）というのだ」と教えてくれた。坪石鎮から急な坂を登り続けて、17時に目的地の梅花鎮に着いた。

梅花鎮は山間の町にしてはとても活気があり、小さい子供がたくさんいた。粮所住宿という宿に入った。部屋は広くて綺麗だったが、シャワーを浴びていたら途中でお湯が出なくなった。老板に聞いたら「表で水道工事をしているからシャワーは使えない」と言われた。宝の持ち腐れという感じがして残念だった。

近くの食堂で炒飯を食べる。勉強熱心な娘さんが、注文をさばきながら教科書を読んでいた。住宿に戻ってからビールを飲んだ。歯を磨いたが、水道水が濁っていて口がゆすげなかった。外で農夫山水を買った。22時半に寝た。



- (左上) 分水嶺近くの良田鎮にて (右上) 広東省に入る  
(左上) 金鷄嶺という岩山  
(右下) 広州まであと 338km もあるらしい (坪石鎮)